

記者発表（資料配布）				
月／日 （曜日）	事務所等名	電話	発表者 （担当者）	その他の 配布先
5/6 （木）	兵庫県立農林水産技術総合センター 淡路農業技術センター	(0799) 42-4920	所長 椿原 健右 （農業部長西口真嗣）	県政記者クラブ 北播磨県民局 淡路県民局

カーネーション栽培におけるCO₂施用について

1 趣旨

淡路島は、約90年前から花き生産が盛んにおこなわれており、特に、カーネーションは都市近郊の立地を活かして主に京阪神の市場に秋から春に出荷されています。かねてから、カーネーションの冬季の施設栽培では温室側窓の閉鎖で炭酸ガス（CO₂）が不足し、光合成が不十分になり品質が低下することが危惧されてきました。そこで、生長を促進するため、淡路農業技術センターで冬季にCO₂施用を行ったところ、切り花重等の品質改善効果が認められました。現在では淡路市内の農家で実証が進められています。

2 内容

（1）淡路農業技術センターにおけるCO₂施用試験の概要

12月下旬から灯油燃焼式炭酸ガス発生装置を用い、CO₂施用しました。その結果、切り花重は重くなり、同時に茎径は太くなり、質感が向上し、硬く良質な切り花が得られました。切り花の品質が向上したことから、3月から4月の売り上げは2割程度増加（1株あたり約26円）することが想定されます。CO₂施用の導入コストは1株あたり8.2円程度であることから、品質向上による売り上げ増加で導入コストをまかなえると考えられます。

（2）淡路市におけるCO₂施用実証の概要

スプレーカーネーション農家において、常時温室内のCO₂濃度をモニターし（図1）、400ppm以下になった場合、CO₂ボンベ（図2）に接続された電磁弁が開き、温室内にCO₂が供給されるように精緻なCO₂濃度制御がされています（図3）。これにより、複数年度の品質に及ぼす影響や費用対効果を明らかにするために、実証的検討が進められています。



図1 CO₂モニター



図2 CO₂ボンベ



図3 温室内にCO₂を施用

3 取材いただける内容

スプレーカーネーション農家におけるCO₂施用後の母の日前の様子を見学していただくことが可能です。

担当 淡路農業技術センター農業部 東浦 優
(0799-42-4880)